

日本基礎理学療法学会トピックス

2020年8月31日

代表運営幹事 藤澤 宏幸

1. 若手理学療法士への期待

本学会では若手研究者の育成に取り組んでまいりました。「夏の学校」と題して、通常の学会では体験できない合宿タイプの研究会です。今年度は残念ながらこのような社会情勢のもと延期（来年度に大阪であらためて開催）となりましたが、昨年度までに4回の「夏の学校」を開催しました。

参加者は全体でのセッションを終えた後も、夜遅くまで各部屋で議論、対話を重ね、新たな見方、研究者としての交流を深めております。運営自体も若手研究者を中心になされ、そのこともよい体験となっているようです。毎年開催される学術大会と併せて、本学会のメインイベントの一つであり、かしこまらずに互いの研究の苦労話ができるように継続、発展させたいと考えております。

〈 夏の学校 HP 〉

http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/summer_school/

2. 近年のトピックス

近年、理学療法領域においても非侵襲的脳刺激法を用いた研究が盛んに行なわれるようになってきました。そこで、日本基礎理学療法学会と日本神経理学療法学会では合同ワーキングを立ち上げ、安全な研究方法の普及のためのステートメントを作成することを目標に、今年度より活動を開始しております。

また、本学会においては発足当初から5つの研究領域を掲げ、学術大会においても5領域毎にセッションを設けて参りました。近年、ロボティクス等の理工系技術の研究成果が理学療法にも応用されるようになってきました。また、基礎研究の結果をもとにした臨床への応用研究も盛んになり、その連携についても重要な領域に成長してきました。

そこで、これら2つの領域を新たに加え、7つの研究領域に再編成し、（次ページ一覧表参照）第25回日本基礎理学療法学会学術大会（仙台）から適用されます。多くの研究発表のもとに活発な議論が行われ、会員の皆様と学会法人化前夜を喜びのなかで過ごしたいと願っております。

研究領域（演題分類）	詳細
① 構造・機能・情報学	ヒト、動物・培養細胞を用いた解剖・組織学、生理学、生化学、病理学、細胞生物学、分子生物学、遺伝子工学、再生医学等に関する理学療法学領域の基礎研究 (運動や物理的刺激による生体反応の解明や、痛みの原因解明・治療法の開発に関する研究を含む)
② 身体運動学	運動学、運動力学、生体工学に関する理学療法学領域の基礎研究 (機能解剖に関する研究、筋電図、超音波診断装置を用いた研究、筋力トレーニングやストレッチ効果に関する研究等を含む)
③ 神経生理学 (運動学習・運動制御を含む)	神経科学、認知科学、心理学に関する理学療法学領域の基礎研究 (運動制御・運動学習に関する研究を含む)
④ 運動生理学	身体活動を支える呼吸機能、心臓・循環機能、体液調整、腎・肝機能、自律神経機能、体温調整、消化吸収とエネルギー代謝などの運動負荷への生理学的応答に関する理学療法領域の基礎研究
⑤ 生体評価学	生体評価（筋力、可動域、感覚など）に関する理学療法領域の基礎研究 (評価法の開発や信頼性、妥当性の検証に関する研究を含む)
⑥ 理工学	理工学に関する理学療法領域の基礎研究 (ロボティクス、機械学習、AI、BMIに関する研究を含む)
⑦ 基礎から臨床への 橋渡し研究	基礎から臨床への橋渡し研究 (基礎研究の臨床応用、臨床における治療法の開発、効果の検証に関する研究を含む)

3. 今後充実を図りたいこと

現在、日本理学療法士学会は来年度の法人化へ向けて議論を進めているところです。本学会においても法人化を目指して準備を開始しており、その取り組みの一つに学会誌の発行があります。「理学療法学」、「Physical Therapy Research」の発行も継続され、新たに法人化した学会が学会誌を発行することになります。

先ほどの「夏の学校」を運営してくれている若手研究者を積極的に編集委員として登用し、多くの研究論文を掲載できる学会誌へと育てていきたいと考えております。